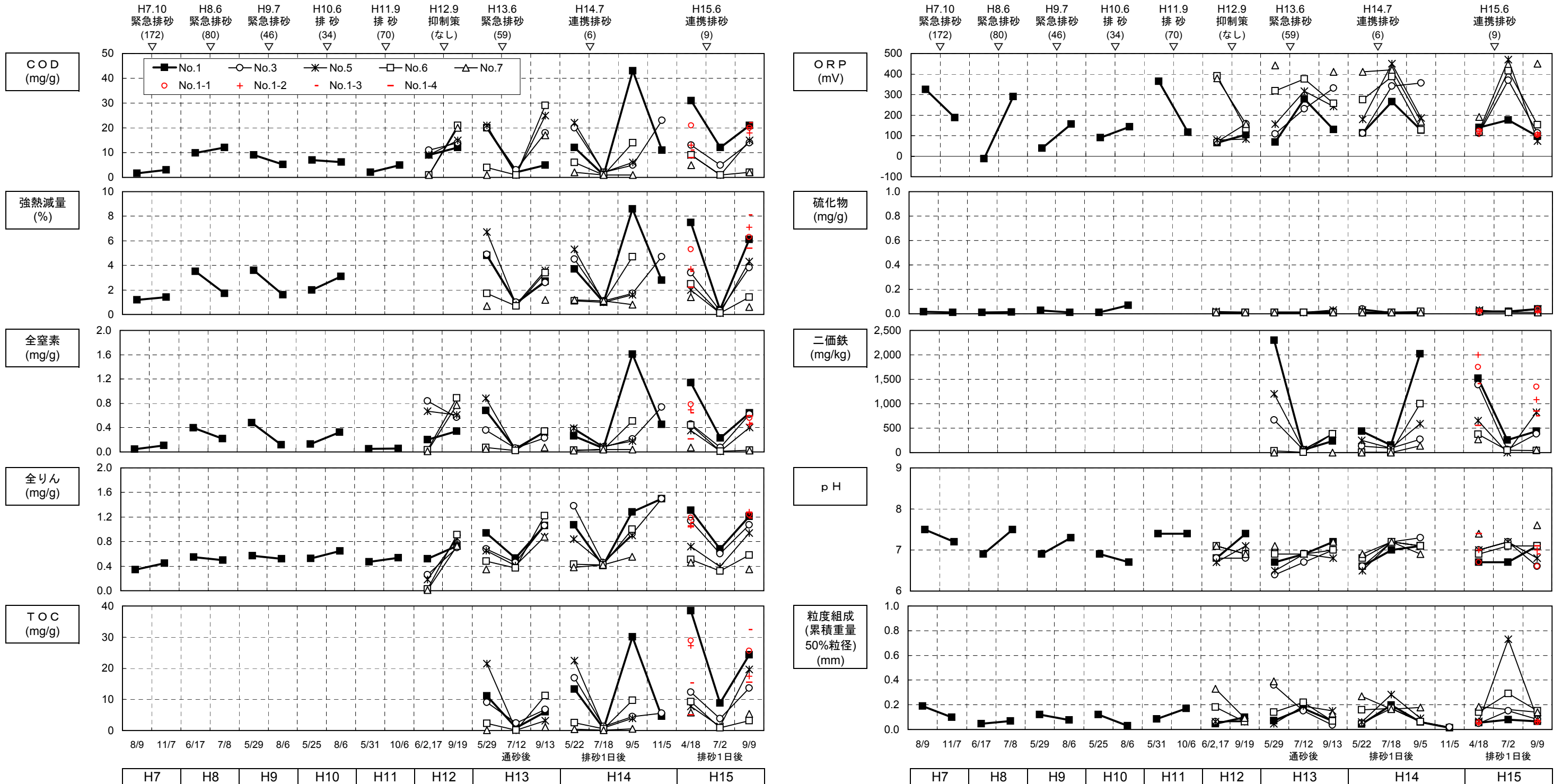


# 出し平ダム湛水池 底質

有機物指標（COD、強熱減量、TOC）、富栄養化指標（全窒素、全りん）については、各地点とも連携排砂1日後調査では指標値が減少したが、9月調査時には増加した。また、還元性指標（ORP、二価鉄）については、各地点とも連携排砂1日後調査時に、より酸化傾向に推移したが、9月調査時には排砂1日後調査時よりも還元傾向に推移した。さらに、粒度組成では、各地点とも連携排砂後は50%粒径が大きくなったが、9月調査では5月調査と同程度であった。これらの傾向は、平成14年までの連携排砂前後の傾向と同様であった。

なお、ダム湛水池内下流部にあるNo.1地点における9月調査時の有機物指標（強熱減量を除く）、富栄養化指標の各指標値をみると、平成15年の値は平成14年の同時期に比較し低いものの、平成13年までに比較し高い値を示している。

また、りんについて、有機態りんが全りに占める割合は、5月調査時は概ね7～8割程度であったが、9月調査時には2～6割程度となった。なお、無機態りんは5月調査時に比較し9月調査時では増加していた。

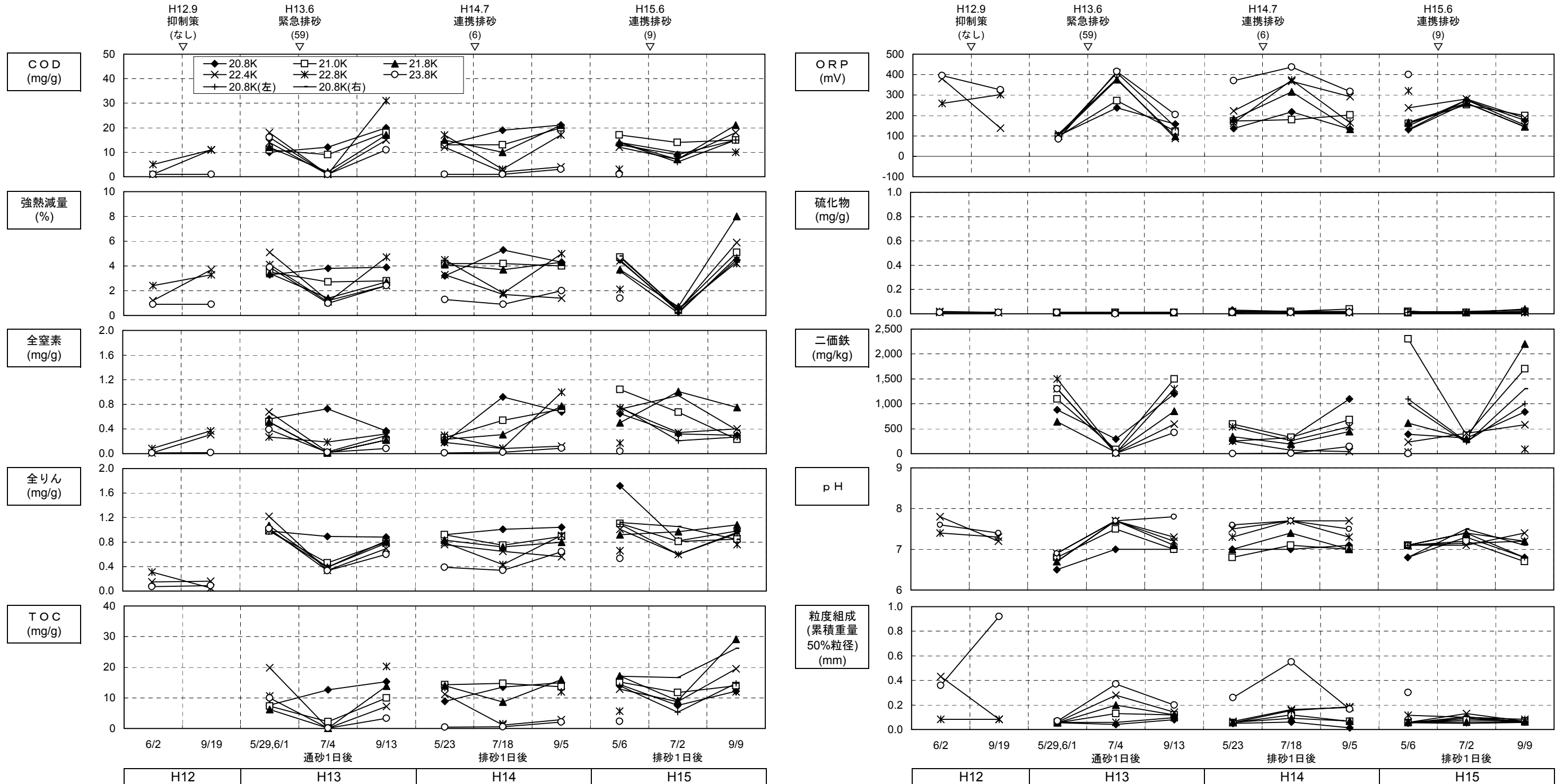


# 宇奈月ダム湛水池 底質

有機物指標（COD、強熱減量、TOC）については、各地点とも排砂1日後調査時は指標値が減少したが、9月調査時には5月調査時と同程度以上に増加した。富栄養化指標（全窒素、全りん）については、20.8K(右岸側)地点の全窒素、21.8K地点を除き各地点とも排砂1日後調査時は減少したが、9月には5月と同程度まで増加した。還元性指標（ORP、二価鉄）についても、22.4K地点の二価鉄を除き各地点とも排砂1日後調査時は、より酸化傾向に推移したが、9月には排砂1日後調査時より還元傾向に推移した。

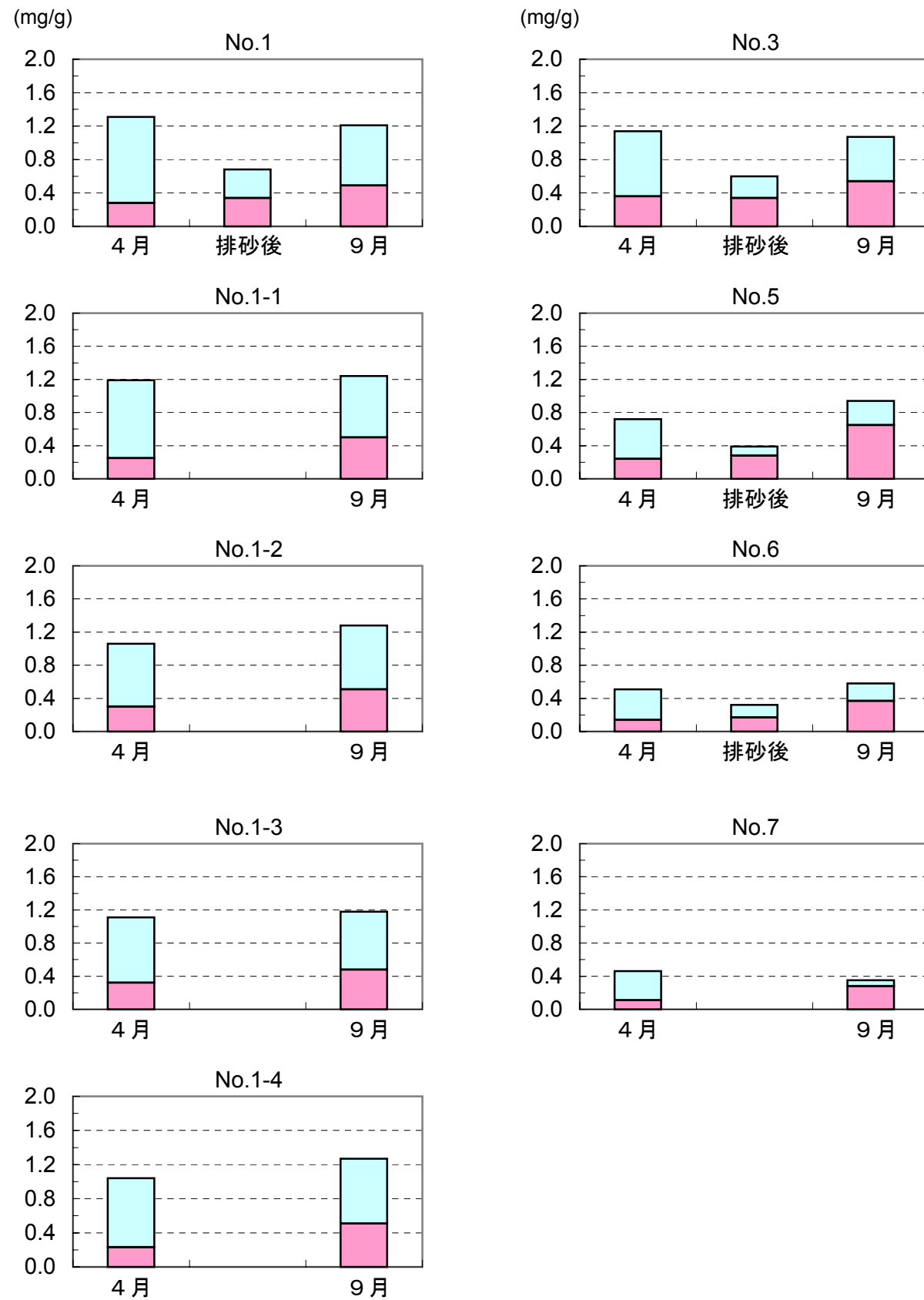
なお、平成13年、平成14年においては、ダム湛水池内下流部の20.8K、21.0K、21.8K地点で、連携排砂（通砂）の前後で、指標値が減少しない傾向がみられていたが、平成15年連携排砂後は、これらの地点でも上記のように指標値の減少がみられた。

また、りんについて、有機態りんが全りに占める割合は、出し平ダム湛水池より低く5月調査時は概ね3～6割程度であったが、9月調査時には2～4割程度となった。なお、5月調査時と9月調査時とで無機態りんはほぼ同程度であった。

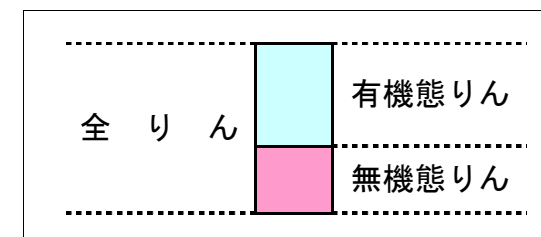
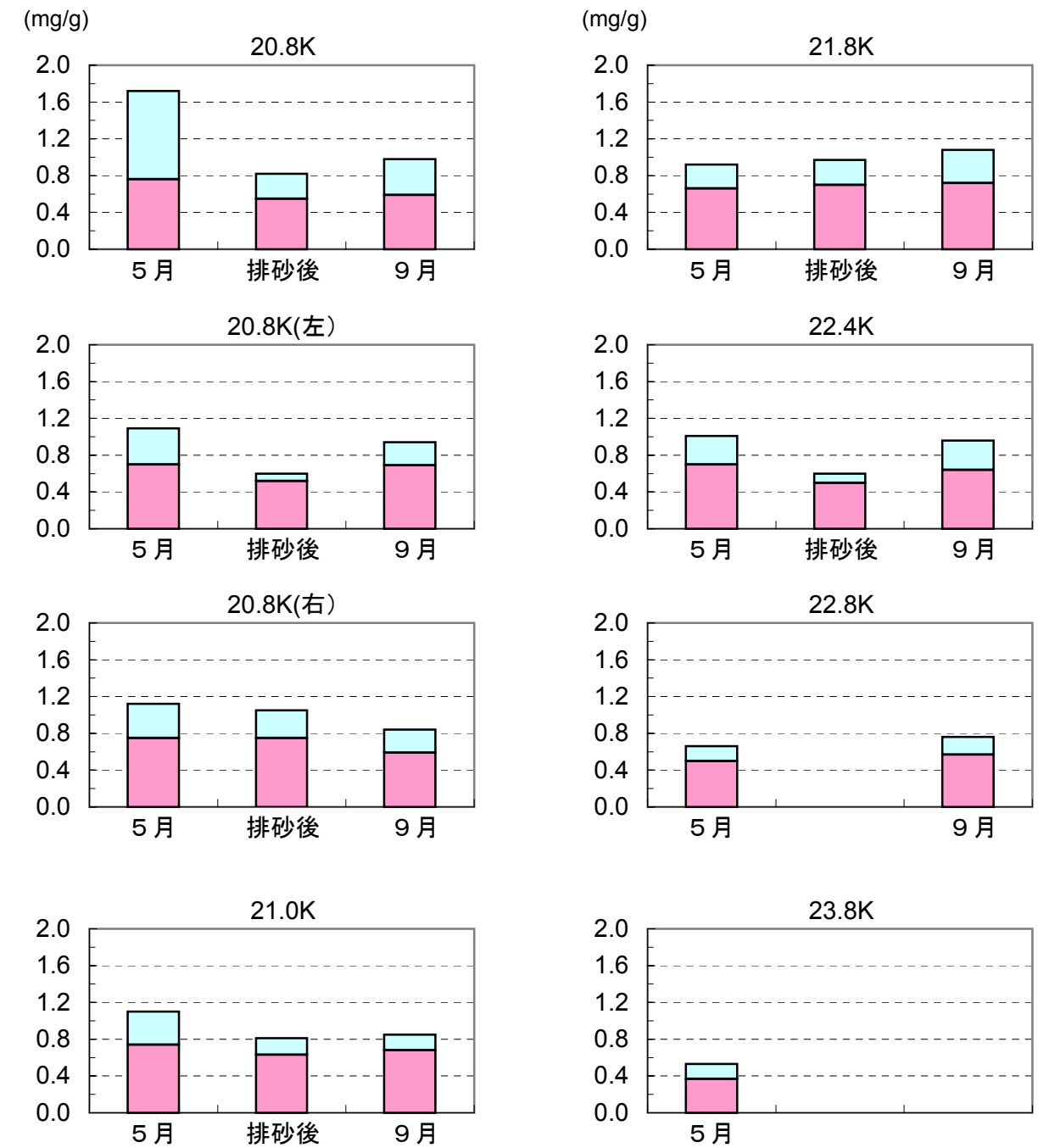


# ダム湛水池 底質 (無機態りんと有機態りん)

## 出し平ダム湛水池

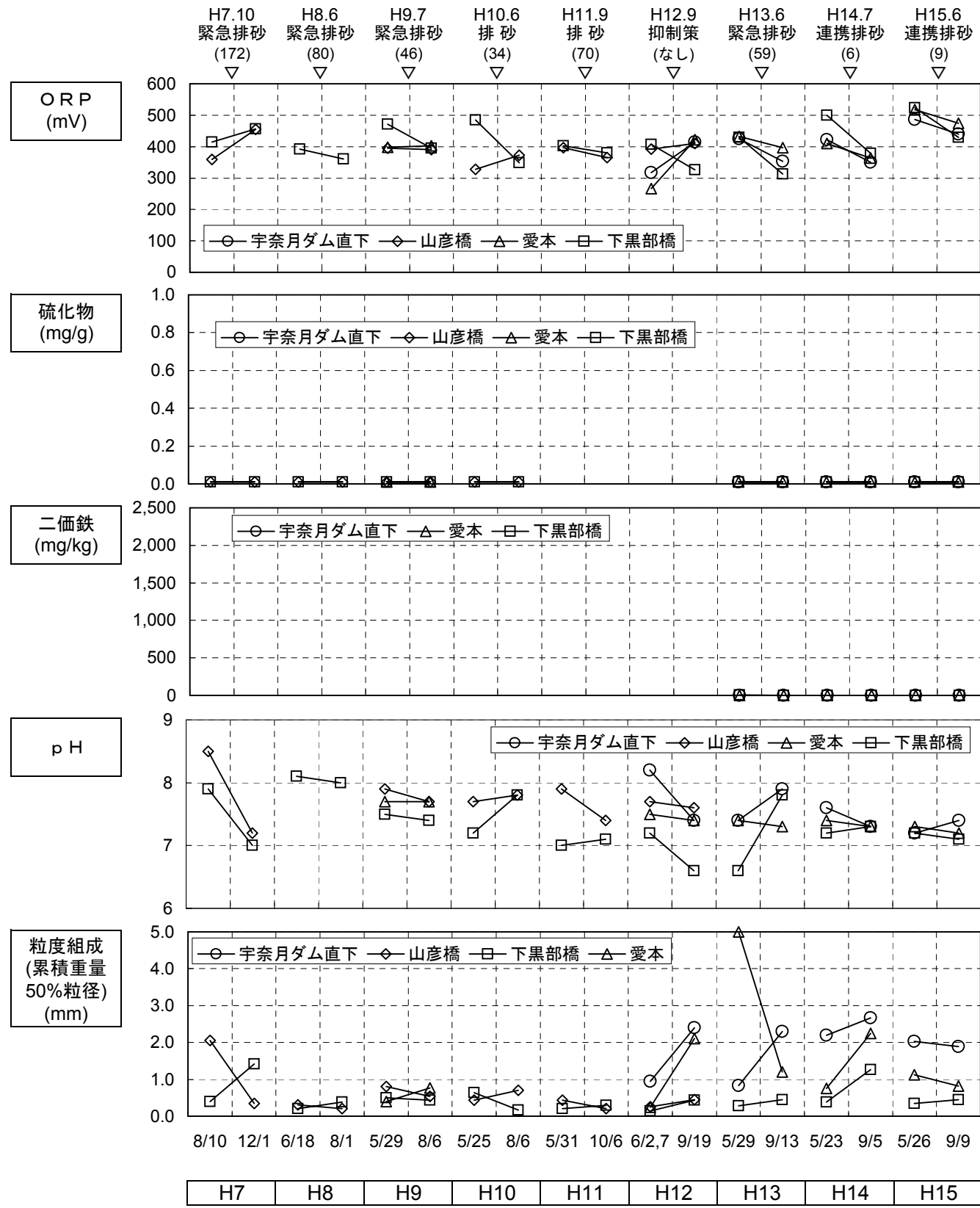
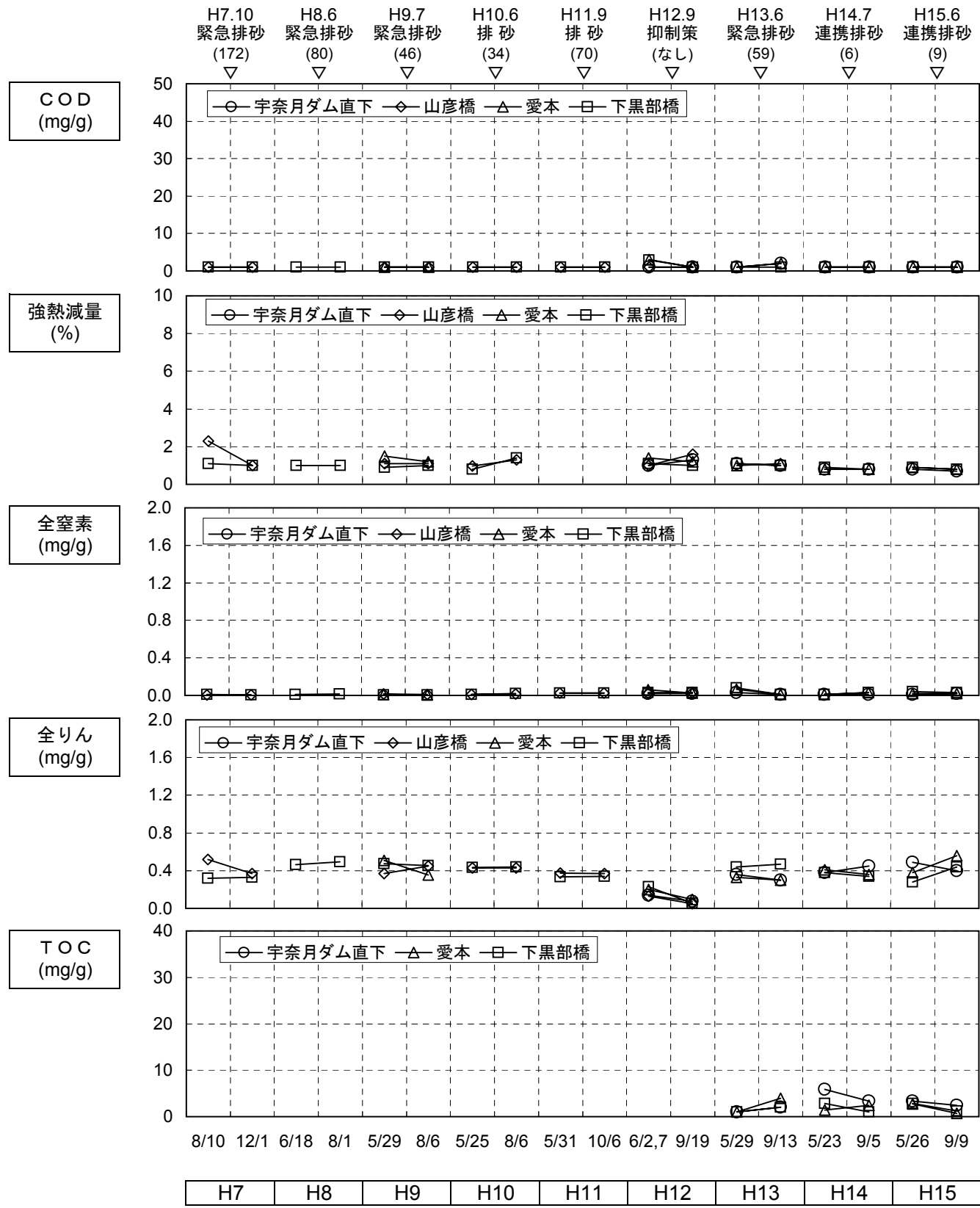


## 宇奈月ダム湛水池



# 河川 底質

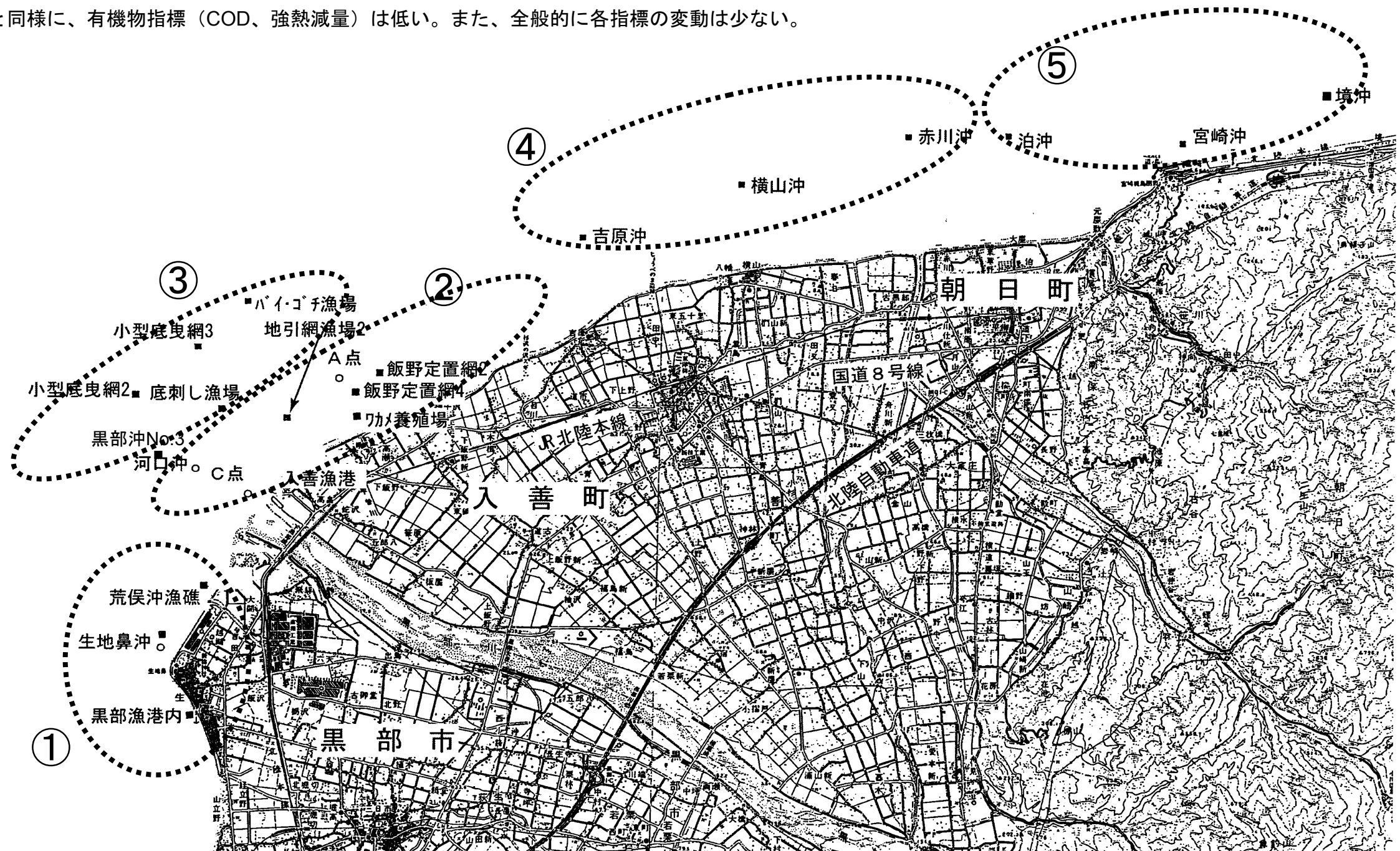
有機物指標（COD、強熱減量等）は5月調査時と比較し9月調査時には、顕著な変化はみられなかった。なお、TOCは5月調査時に比較し9月調査時では減少（改善）した。  
還元性指標のうちORPは5月調査時と比較し9月調査時では減少（還元傾向）したが、酸化領域にあり良好な状態を継続している。また、硫化物、二価鉄は定量下限値以下であった。



## 海域 底質

底質調査地点を、河口からの位置関係で以下の5つに区分する。

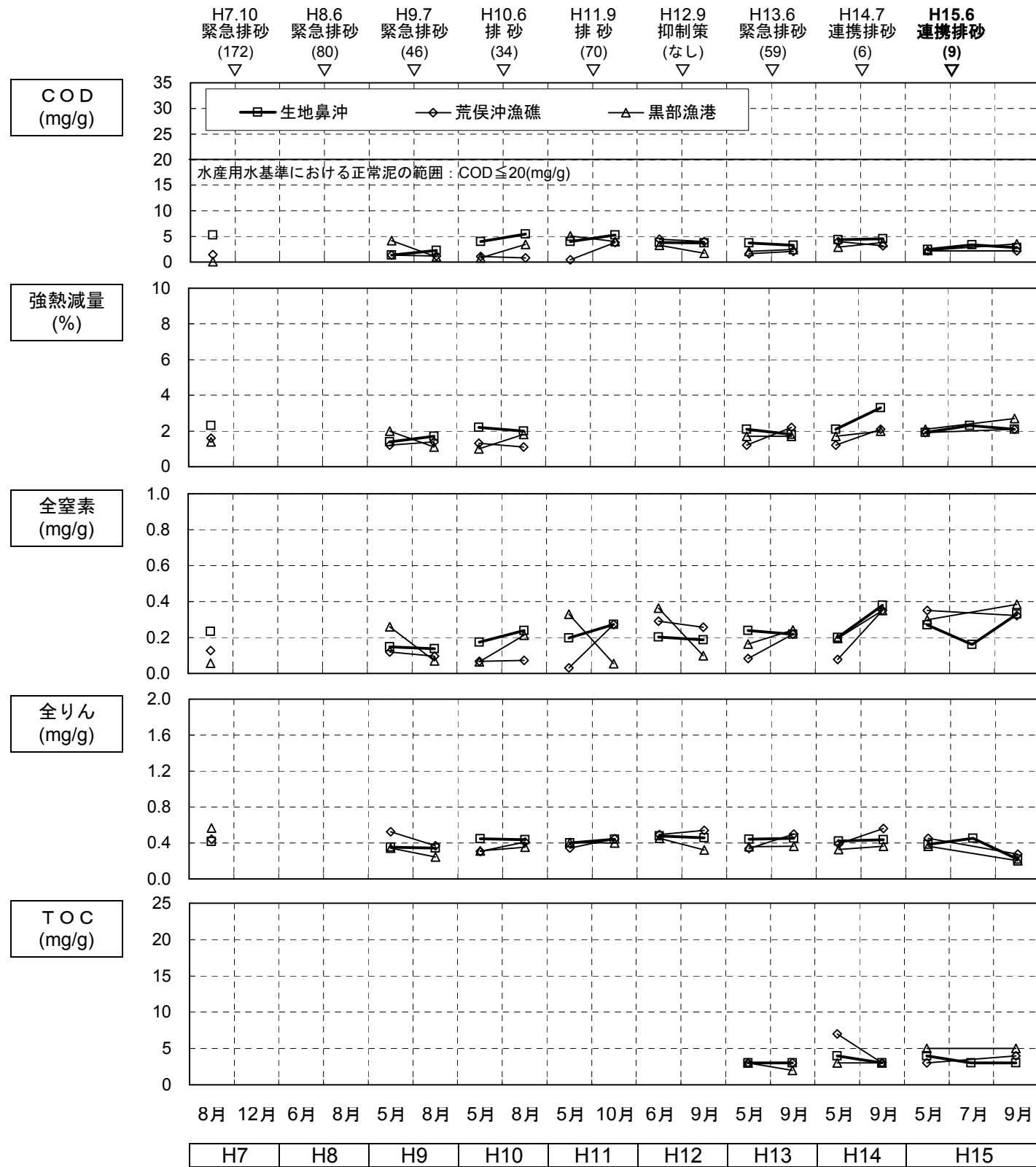
- ① 海域1 有機物指標（COD、強熱減量）は5区分の中では低い。5月調査時と9月調査時を比較すると大きな変動はみられなかった。
- ② 海域2 A点、飯野定置2、地引網漁場2では、有機物指標（COD、強熱減量）、T-N、T-Pが海域3に次いで高い。C点では7月下旬の排砂後調査時に有機物（COD、強熱減量）、T-Nの指標が増加したが、9月調査時には5月調査時と同程度まで減少した。
- ③ 海域3 有機物指標（COD、強熱減量）やT-N、T-Pが5区分の中では高い。小型底曳き網3地点では5月調査時に比較し9月調査時のT-Nが増加した。
- ④ 海域4 海域1と同様に、有機物指標（COD、強熱減量）は低い。
- ⑤ 海域5 海域4と同様に、有機物指標（COD、強熱減量）は低い。また、全般的に各指標の変動は少ない。



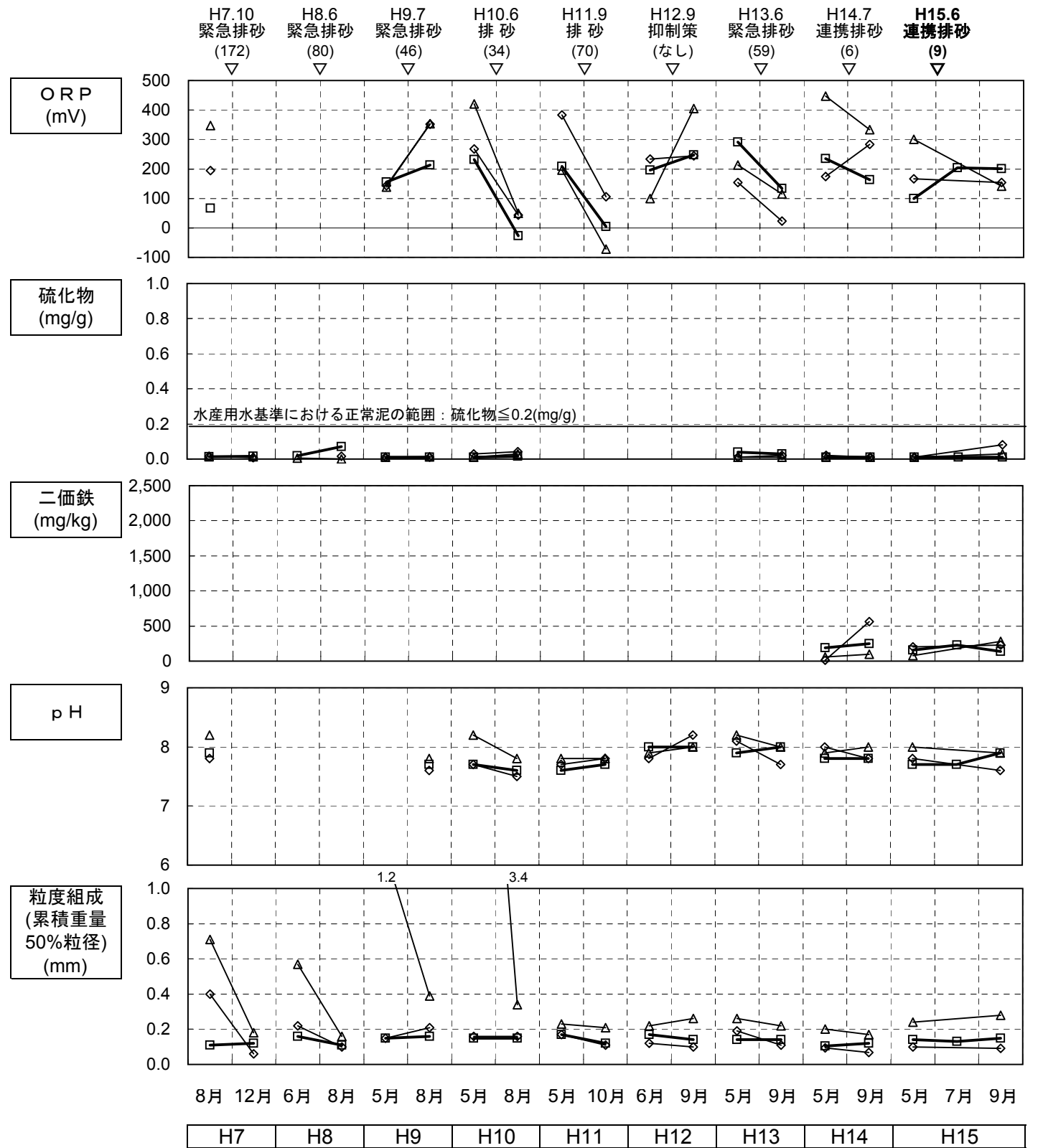
※二価鉄の分析方法について

平成13年度は「JIS M 8213 鉄鉱石-酸可溶性(Ⅱ) 定量方法」による分析を行ったが、平成14年度はダム湛水池及び河川における分析方法と同じ「土壌養分分析法 塩化アルミニウム抽出法」による分析に変更した。平成13年度の分析方法は、試料を強酸で分解させるため、活性及び不活性な二価鉄、さらに試料中に含まれる、金属鉄の一部も溶解され二価鉄として定量しているのに対し、平成14年度の分析方法は、試料を弱酸で抽出し活性二価鉄のみを定量しているため、一般的に分析値は平成13年度の分析方法によるものが高い値を示す。

① 海域1 (生地鼻沖、荒俣沖魚礁、黒部漁港)



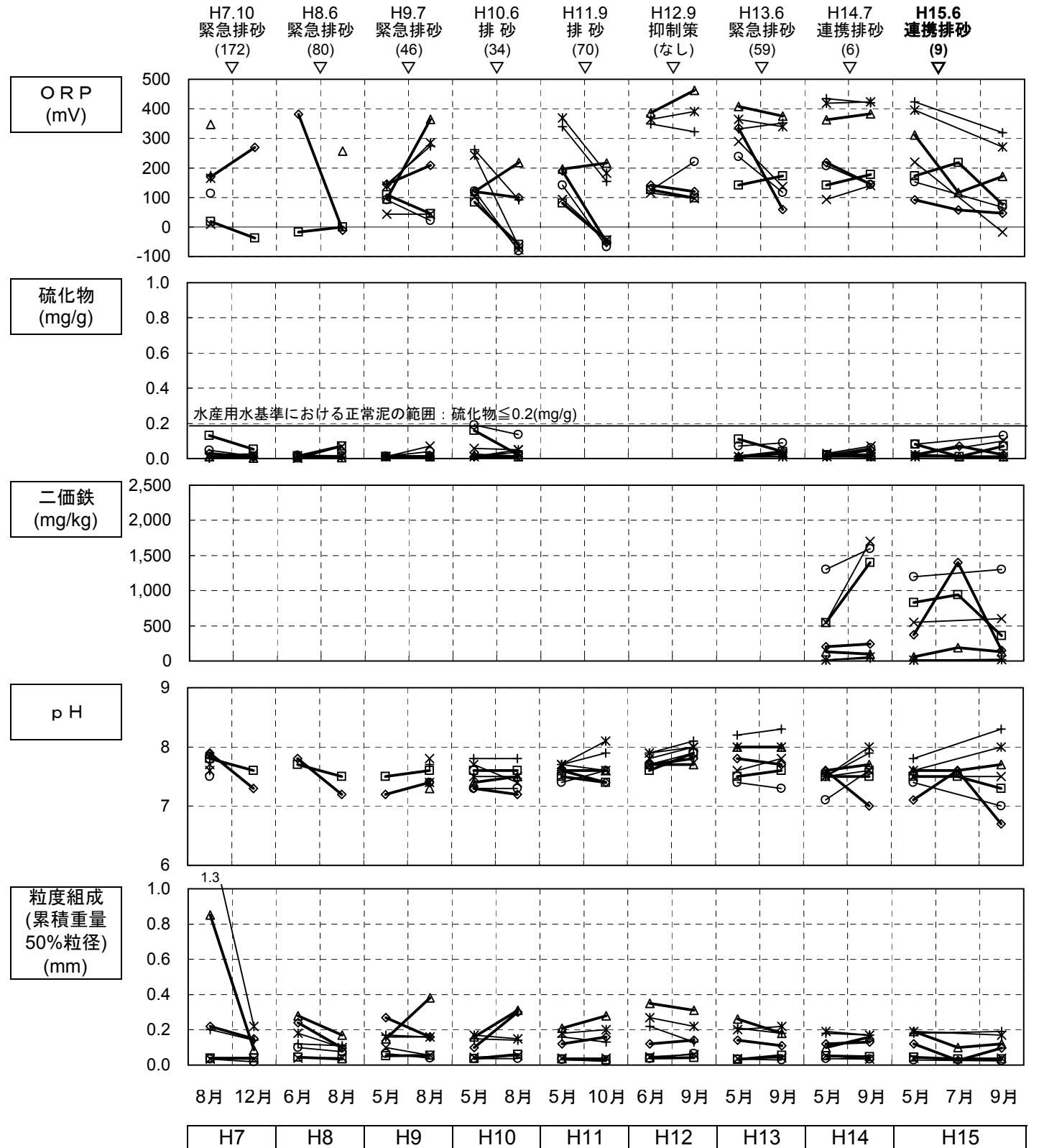
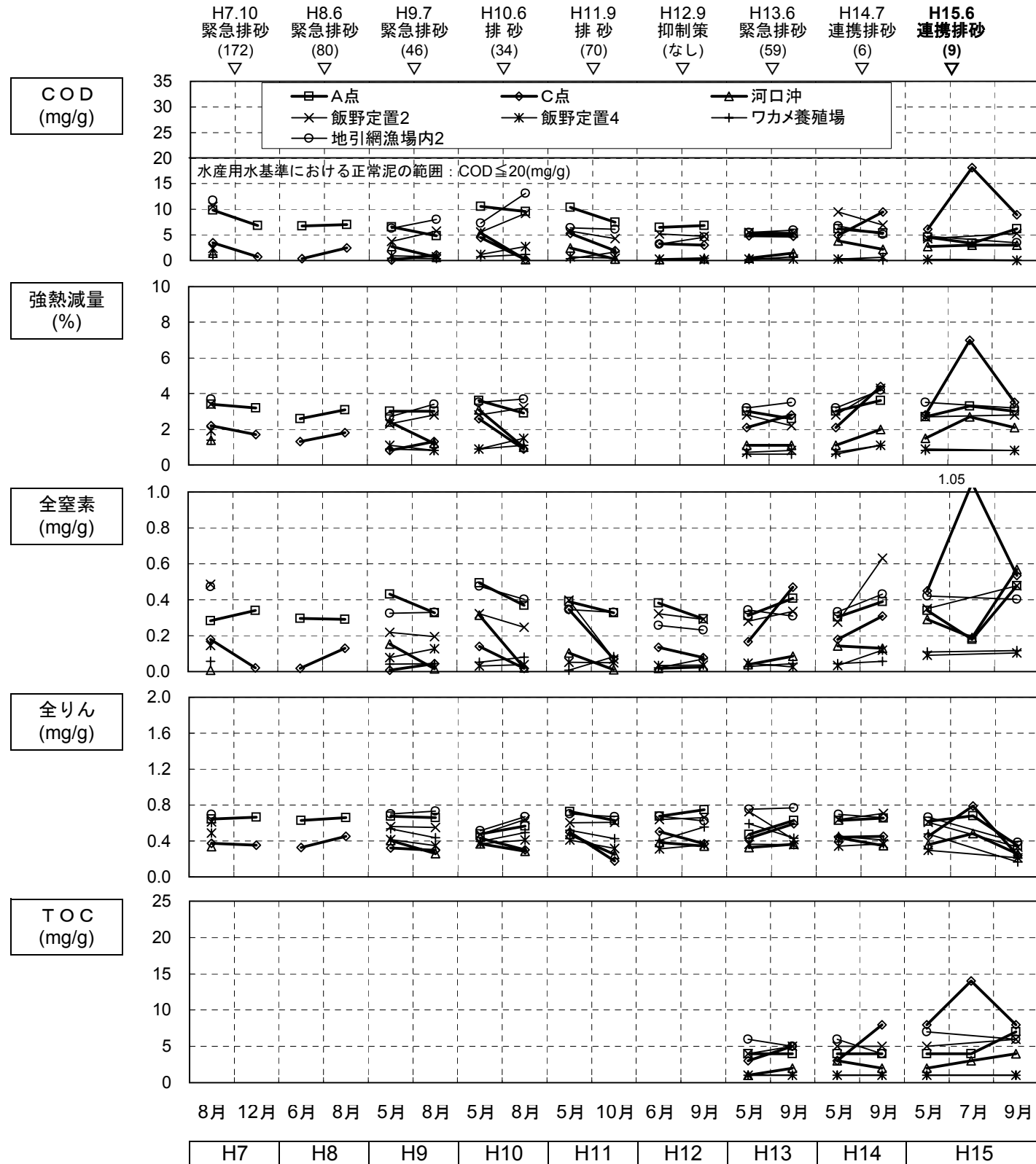
※水深 生地鼻沖：50m、 荒俣沖魚礁：17m、 黒部漁港：50m



※二価鉄の分析方法

平成13年 : JIS M 8213 鉄鉱石-酸可溶性(II)定量方法  
平成14年以降 : 土壤養分分析法 塩化アルミニウム抽出法

② 海域2 (A点、C点、河口沖、飯野定置2、飯野定置4、ワカメ養殖場、地引き網漁場内2)



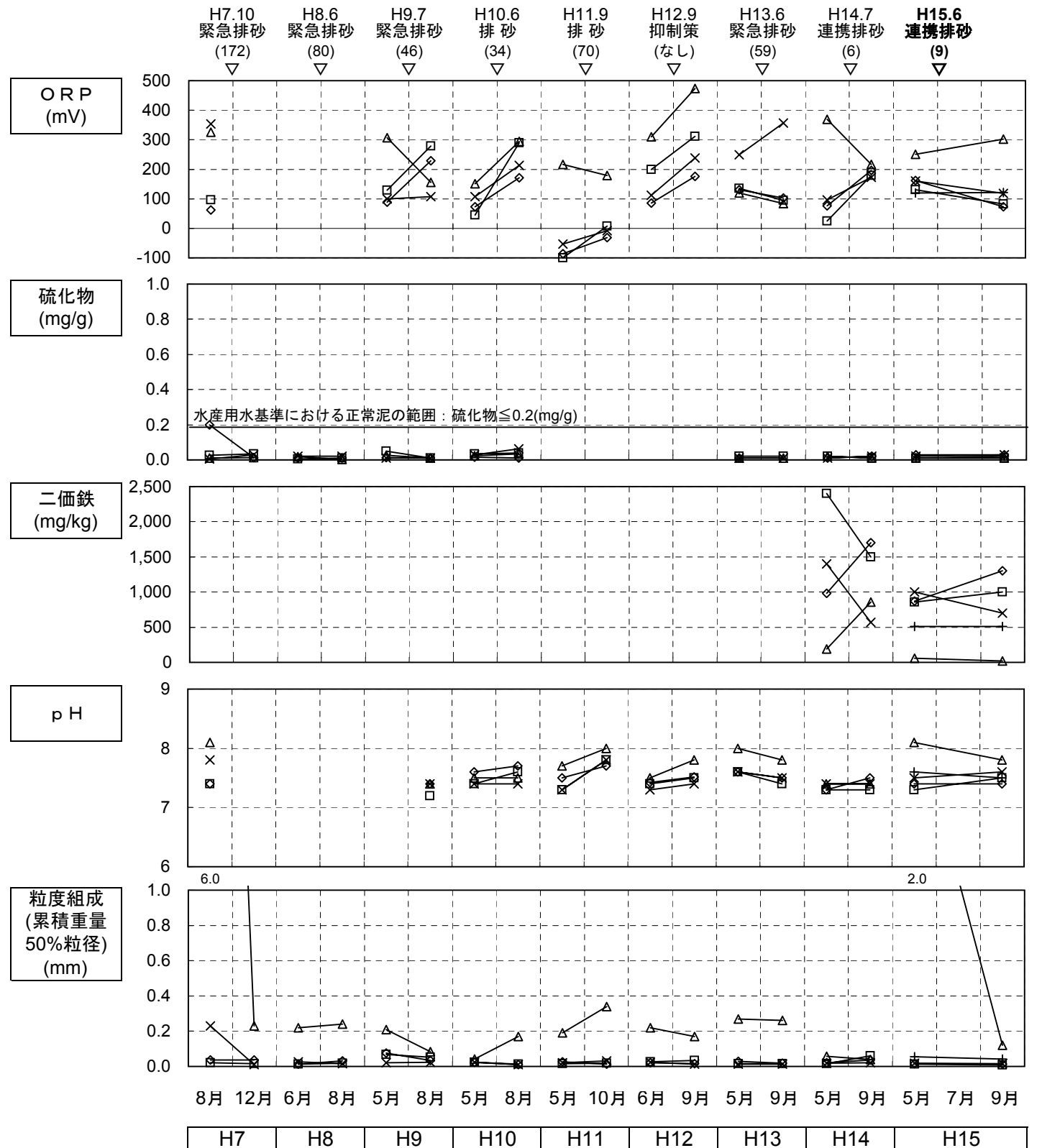
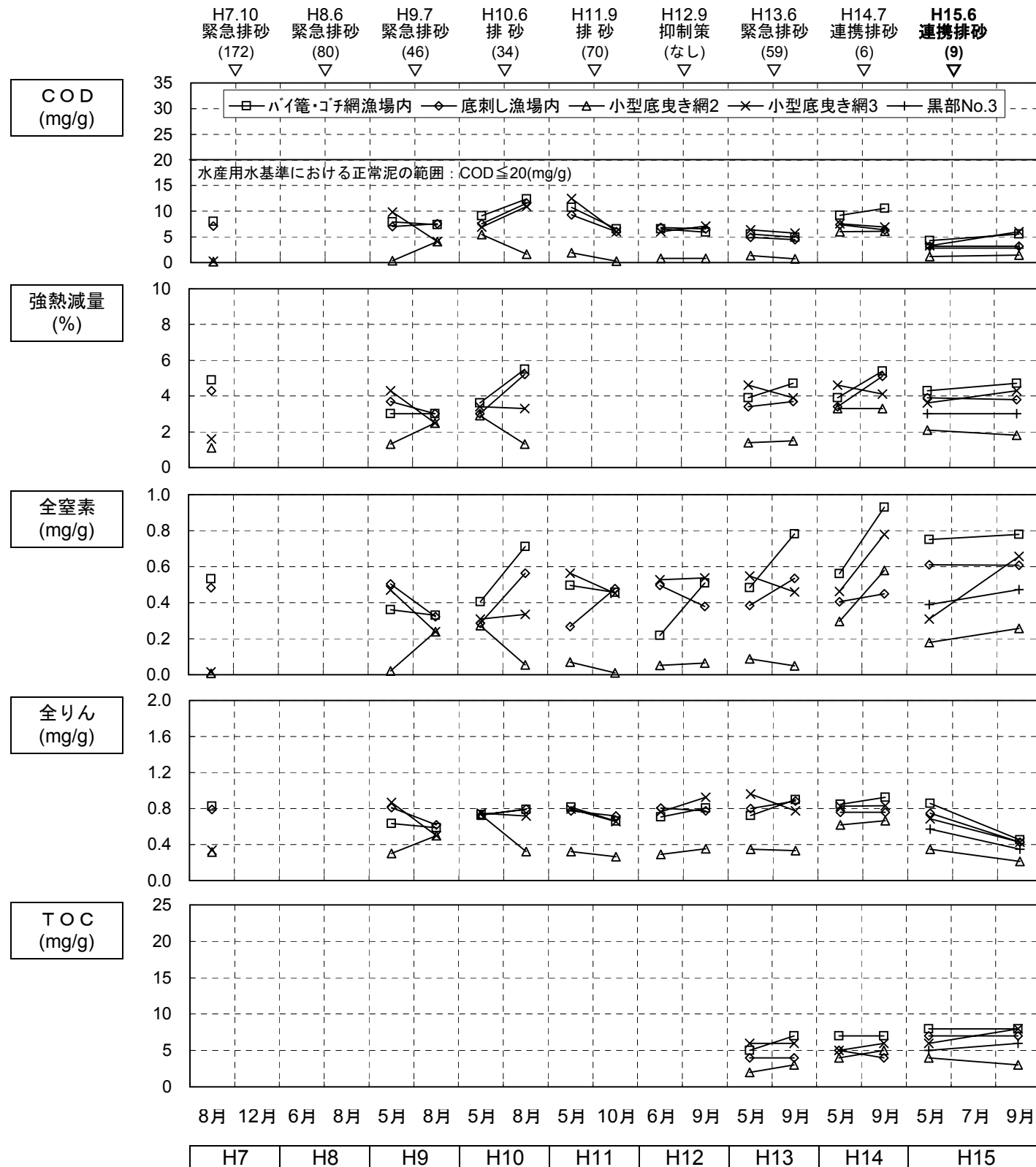
※水深

A点: 50m、C点: 35m、河口沖: 200m、飯野定置2: 13m、飯野定置4: 50m、ワカメ養殖場: 13m、地引き網漁場内: 50m

※二価鉄の分析方法

平成13年 : JIS M 8213 鉄鉱石-酸可溶性(II)定量方法  
平成14年以降: 土壤養分分析法 塩化アルミニウム抽出法

③ 海域3 (バイ籠・ゴチ網漁場内、底刺し漁場内、小型底曳き網2、小型底曳き網3、黒部沖No.3)

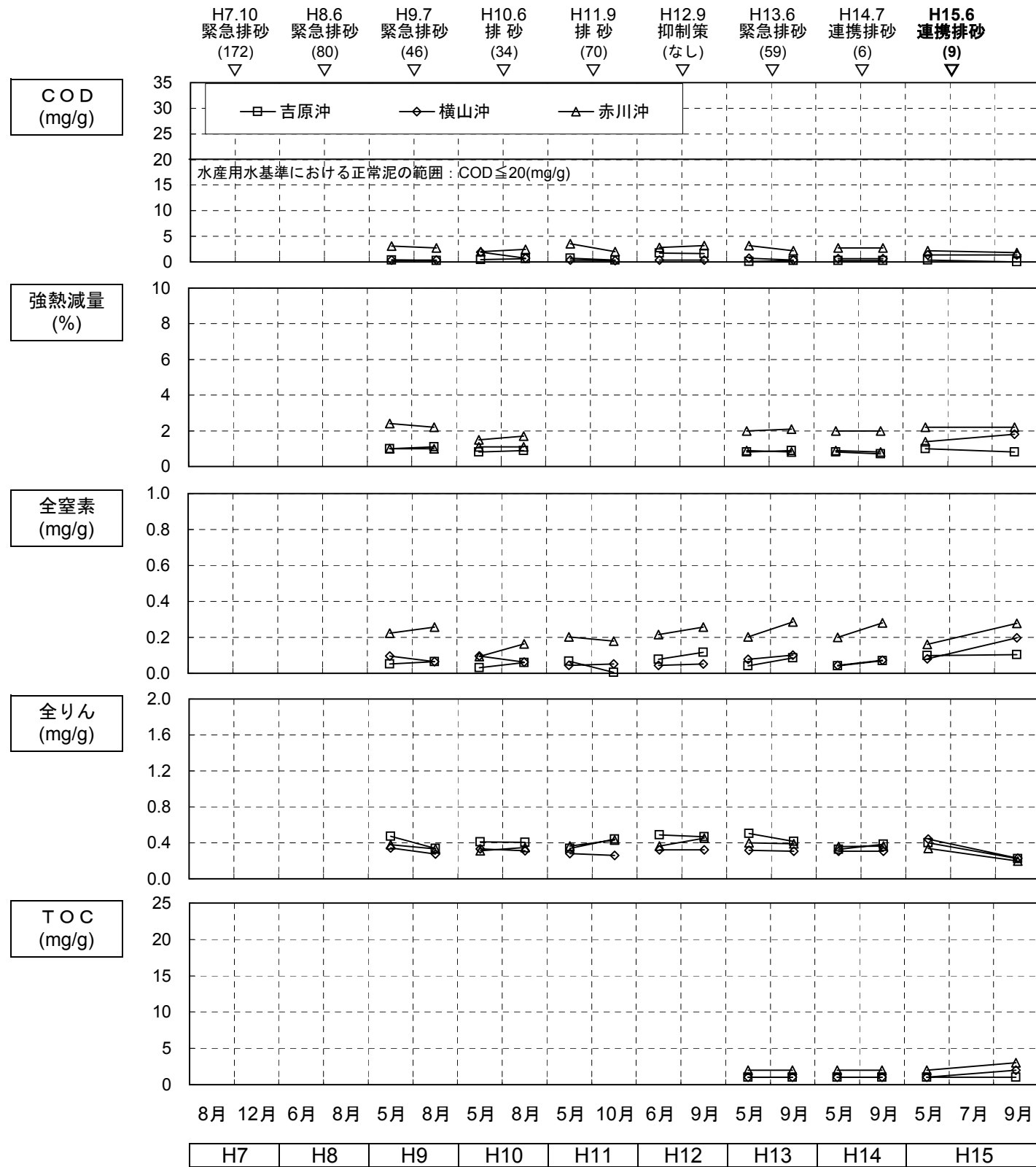


※水深 バイ籠・ゴチ網漁場内: 350m、底刺し漁場内: 220m、小型底曳き網2: 400m、小型底曳き網3: 320m、黒部No.3: 270m

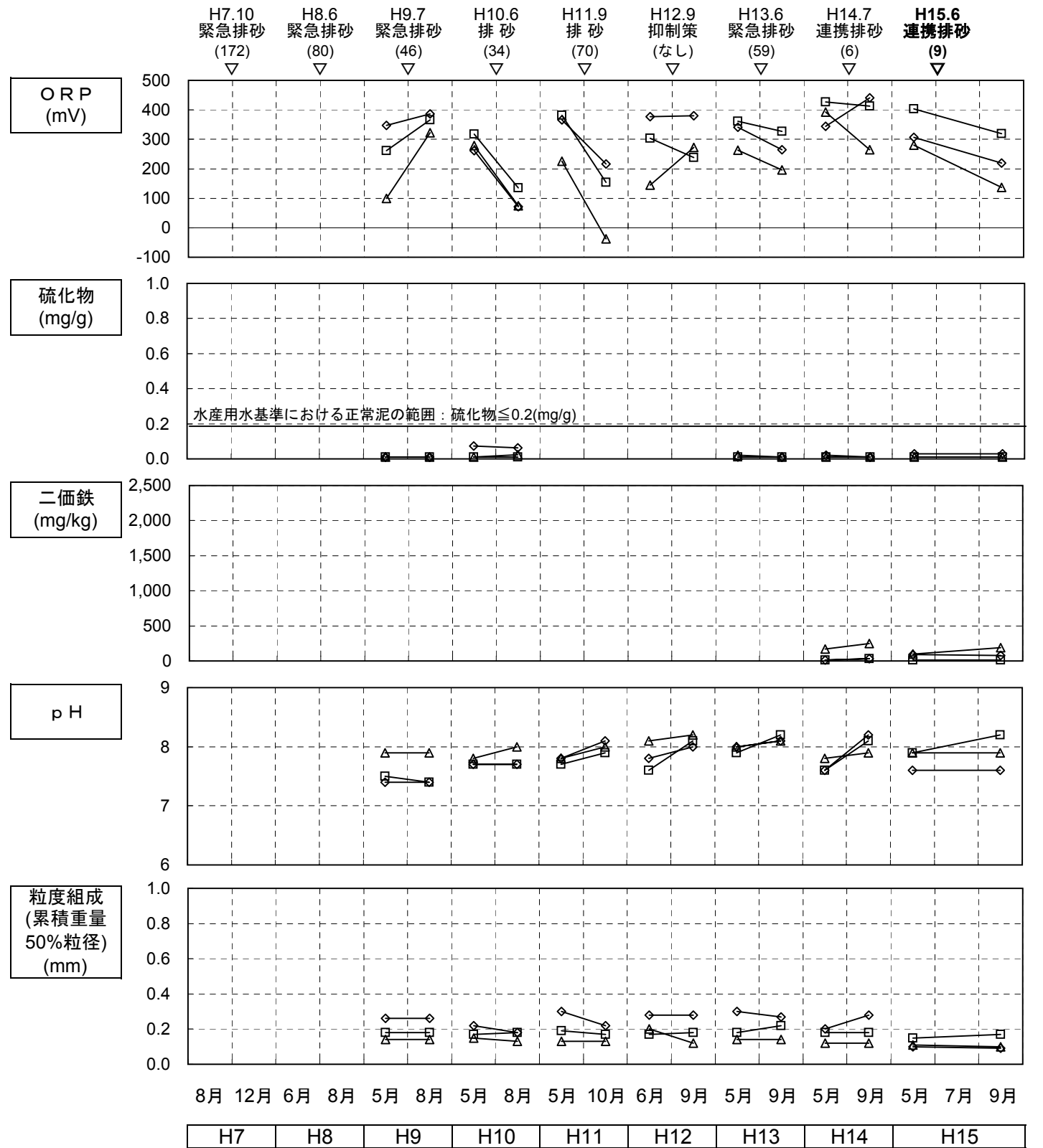
※二価鉄の分析方法 平成13年 : JIS M 8213 鉄鉱石-酸可溶性(II)定量方法  
 平成14年以降: 土壤養分分析法 塩化アルミニウム抽出法



④ 海域4 (吉原沖、横山沖、赤川沖)



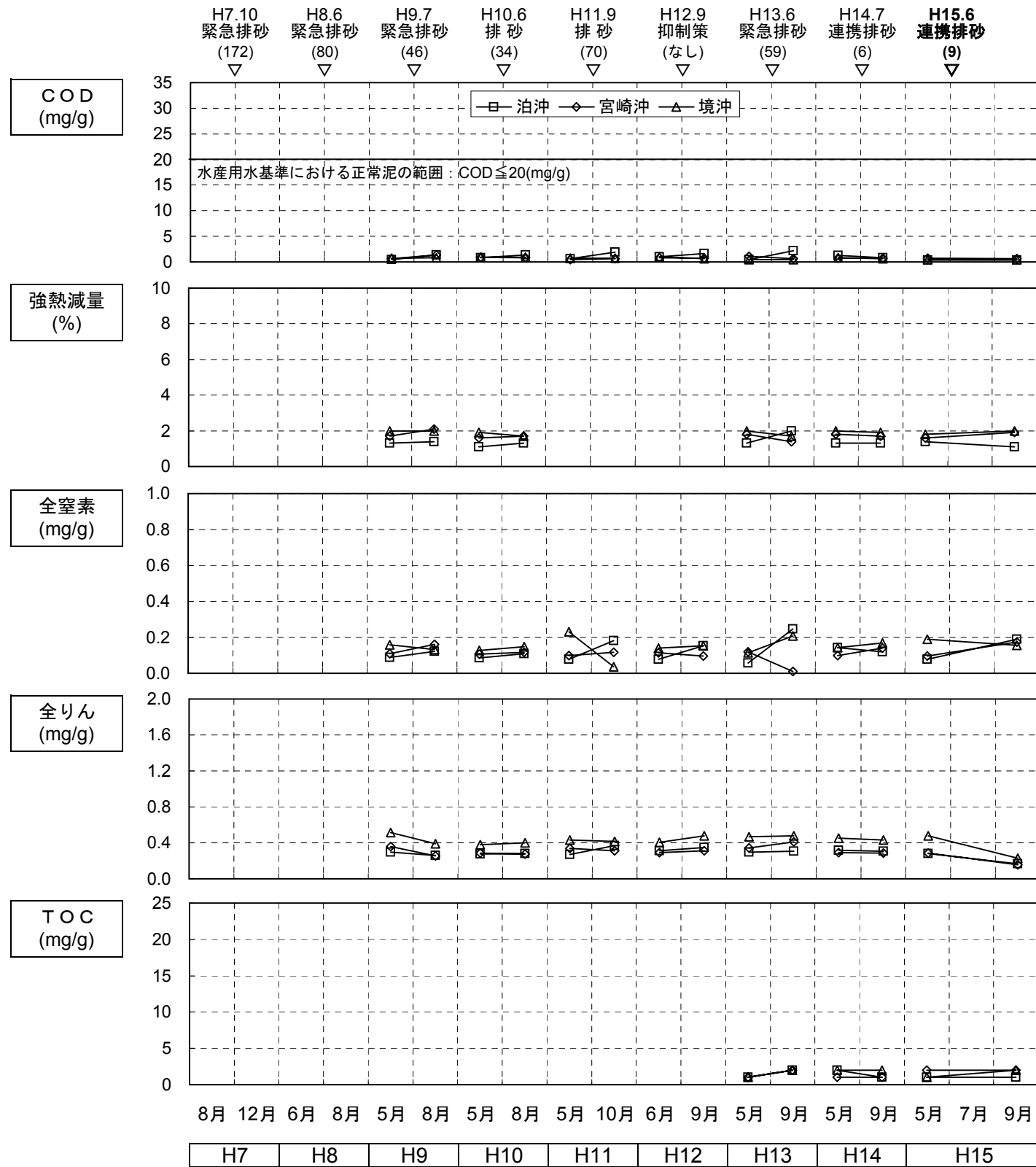
※水深 吉原沖: 28m、横山沖: 30m、赤川沖: 41m



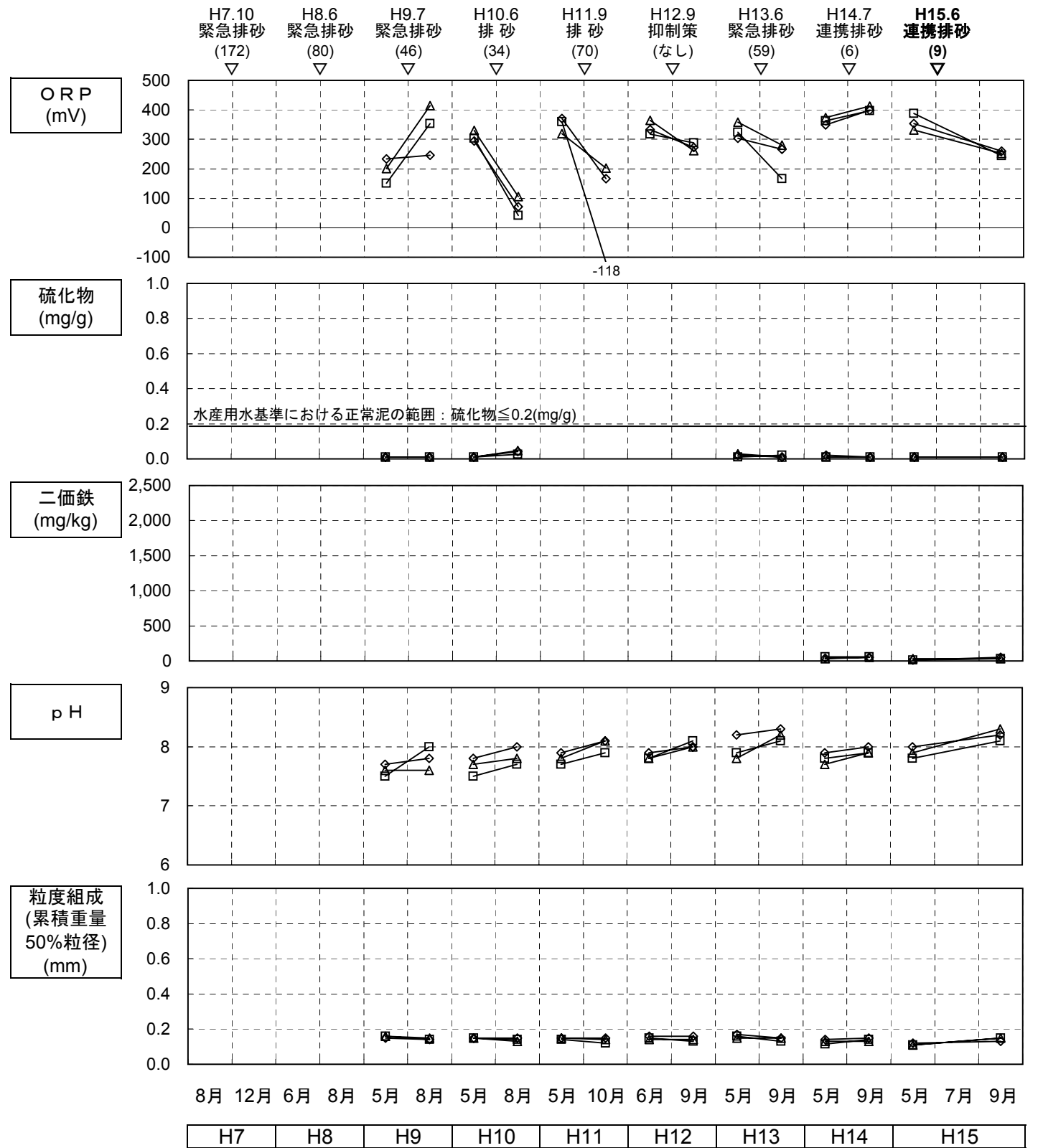
※二価鉄の分析方法

平成13年 : JIS M 8213 鉄鉱石一酸可溶性(II)定量方法  
 平成14年以降: 土壤養分分析法 塩化アルミニウム抽出法

⑤ 海域5 (泊沖、宮崎沖、境沖)



※水深 泊沖: 30m、宮崎沖: 13m、境沖: 16m



※二価鉄の分析方法 平成13年: JIS M 8213 鉄鉱石-酸可溶性(II)定量方法  
平成14年以降: 土壤養分分析法 塩化アルミニウム抽出法